

時流

就任インタビュー

8月に社長に就任した宮川氏は、昭和58年に前澤工業に入社して以来、管理畑を中心にキャリアを歩んできた。

え方があり、部署ごとの問題点や苦労を知ることができたのは、その後の仕事に大いに役立っています。プロジェクトを通して全社的な視点で物事を考える力を身に付けることができたと思います」と答えてくれた。

続けて、「平成27年から4年ほど当社の製造拠点である埼玉製造所の所長を務め、生産現場のとりまとめを担うことで、改めて自社の製品に対する知識・理解を深めることができ、より一層愛着がわきました。また、特殊な製品の組み立てや鋳物の鋳造などには、マニュアルでは表せないような独特な技能・ノウハウが必要となります。これらは当社にとっての宝であり、その伝承を現場に任せきりにせ

ず、会社として守っていくことがとえ、技術・技能継承の新たな制度を作ったことも思い出に残っています」と振り返る。

宮川氏は、全国の上下水道事業において人口減少や施設の老朽化、技術職員の減少などの課題が山積している現状について「当社にとっても逆風、ネガティブな状況にあると思うところですが、例えば、ダウンサイジングや管理の効率化に適したシステ

社は省エネ性能に優れたシステム・製品を数多く有しています。これらは時代のニーズに合致したものであり、積極的に拡販していきたい」と前向きに語る。

宮川氏は「この3年間は、今後10年先を見据え、飛躍を期すための足場固めの期間と考えています。特に事業領域の拡充のうち、再生エネ・省エネ技術の拡充と展開に向けては、省エネ性能に優れたシステムの普及に向けて、さらなる開発が必要と思っています」とさらなる成長に向けて意気込みを語る。

最後に、社長としての抱負を伺うと、「長年にわたって蓄積してきた技術や考え方をベースに、環境変化が大きい世の中に貢献していきたいと思っています。特に若い社員は社会貢献や環境問題への意識が非常に高いと感じており、彼らが誇りを持って働けるような事業運営を行っていききたい。また、一人ひとりの個性が活かされる、多様な人材がそれぞれの部署で活躍できるような組織を作りたいと思っています。人には強みと弱みがあり、特に強みをどうやっ

省エネ技術などさらなる開発を

多様な人材活躍できる組織に

「現時点では取り組みが十分に進んでいると言えませんが、社内には潜在的なDX推進のエンジンになる人材がいると思っています。担当部門だけでなく、全社的に取り組みを進めていけたら」と語ってくれた。

さらに、DXの推進についても「現時点では取り組みが十分に進んでいると言えませんが、社内には潜在的なDX推進のエンジンになる人材がいると思っています。担当部門だけでなく、全社的に取り組みを進めていけたら」と語ってくれた。



前澤工業 代表取締役社長 宮川 多正氏

最後に、社長としての抱負を伺うと、「長年にわたって蓄積してきた技術や考え方をベースに、環境変化が大きい世の中に貢献していきたいと思っています。特に若い社員は社会貢献や環境問題への意識が非常に高いと感じており、彼らが誇りを持って働けるような事業運営を行っていききたい。また、一人ひとりの個性が活かされる、多様な人材がそれぞれの部署で活躍できるような組織を作りたいと思っています。人には強みと弱みがあり、特に強みをどうやっ